

データで示す、質の高いケアへの挑戦

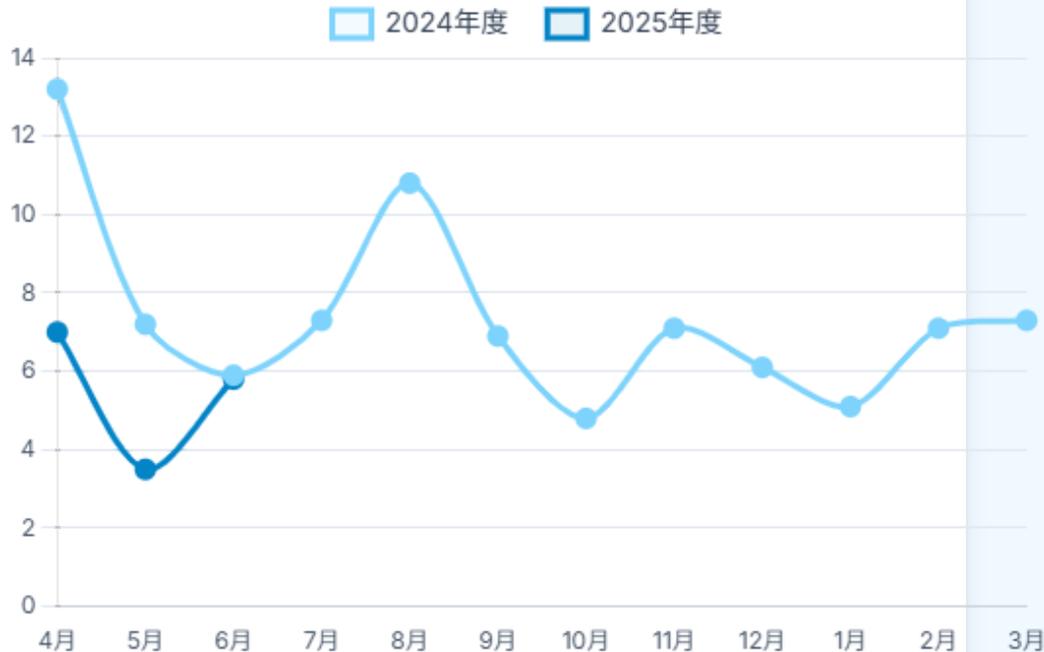
東大泉病院は、86床の療養病床を有する病院として、患者様のQOL向上を最重要課題と捉え、病院全体で褥瘡対策に組織的に取り組んでいます。

成果の可視化：KPI推移

褥瘡対策の成果は、主要な指標である有病率と発生率のデータに明確に表れています。

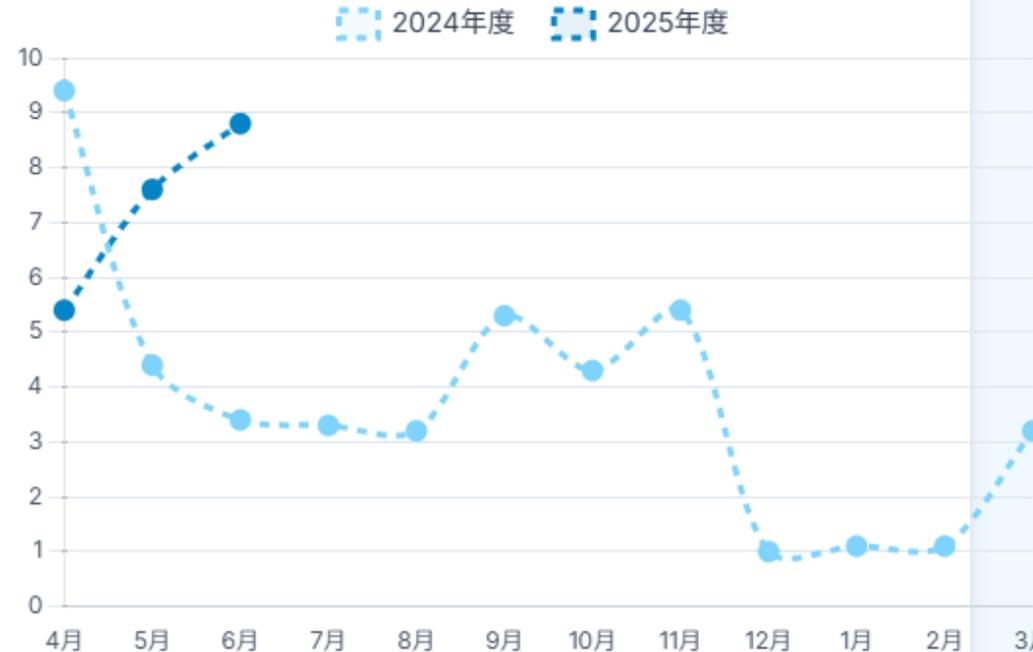
褥瘡有病率の年度比較 (%)

有病率は低い水準で安定的に推移しています。



褥瘡発生率の年度比較 (%)

継続的な対策で発生抑制に努めています。



成果を支える3つの柱

データ改善の背景には、当院独自の体系的なアプローチがあります。



専門医を核とした チームアプローチ

専門医の的確な診断と指示のもと、多職種が連携し、病棟の担当者がケアを主導する体制を構築しています。

皮膚科専門医 (週1.5日)



多職種褥瘡対策委員会



各病棟の褥瘡委員



病棟主導で探求する ケアの質向上

常に最善のケアを目指し、スタッフが主体となって新しい知識や技術、効果の高い製品を積極的に導入・評価しています。

体圧分散寝具

モルテン社・ケープ社製品を評価・選定

創傷被覆材

ハイドロサイトADジェントルを有効活用

洗浄・デブリードマン用製品

ウンドクロスで創に優しいケアを実践

【新規導入】ロンボピロー

専門的ポジショニングで安楽性を追求



データと指摘を活かす 継続的な改善体制

データや外部からの指摘を真摯に受け止め、PDCAサイクルを回すことで、継続的に業務を改善する文化が根付いています。

- ✓ **監査への迅速な対応**：本部業務点検の指摘を受け、褥瘡回診の体制を迅速に改訂。
- ✓ **課題への具体的対策**：持ち込み褥瘡に対し、栄養状態(アルブミン値)の重点的観察を徹底。
- ✓ **明確な管理体制**：ケア用品の管理責任者を各病棟の褥瘡委員に定め、責任の所在を明確化。

今後の展望

2年以上の治療を経て褥瘡が完治した事例や、病棟単位で褥瘡患者ゼロを達成した成果は、まさにこのチームアプローチの賜物です。今後も、患者様の高齢化や重症化という課題に真摯に向き合い、病院一丸となって褥瘡対策を推進し、すべての患者様が安楽に、そして尊厳を保ちながら療養生活を送れるよう、最善を尽くしてまいります。

© 2025 Higashi-Oizumi Hospital